



JARA NEWS

JAPAN AUTOMOBILE RECYCLE NETWORK NEWS

Vol.79 SEPTEMBER 2014 <http://www.jara.co.jp>

Published by JARA Corporation

Tokyo Head Office: Shinwa Bldg. 1-2-2-7F

Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo, JAPAN 103-0027

Phone: +81 3 3548 3010 / Fax: +81 3 3231 4690



地域社会に開放し祭りや見学会

地域社会に施設を開放し、事業内容の情報発信の内容をより濃くするため、自動車リサイクル祭りを開催することにした。自動車リサイクル工場の見学に加え、「くるま解体ショー」ではニブラ（重機）を使った解体作業の実演を行う。いらなくなった玩具を持ち寄って交換する「かえっこバザール」や縁日コーナーなど、家族連れに楽しんでもらう企画も行っている。

久保田オートパーツ 社会への貢献活動に 一段と力

久保田オートパーツ（久保田泰規社長、宮崎市細江）は、3万6400㎡の敷地を有効活用して、使用済み自動車（ELV）の解体、リサイクル部品の生産といった事業を積極的に推進している。同社は、ELVの買い取りを強化するとともに、「地域社会との共生、社会貢献も不可欠」（久保田社長）として、さまざまな取り組みを行っている。3年前からは一般の人々に工場を開放する大型イベント「自動車リサイクル祭り」を年1回開催している。家族連れを中心に多くの来場者でにぎわい、地域社会での存在感を高めている。

半径10キロメートルに 案内看板120本設置

同社は、前社長の久保田茂氏が「久保田自動車解体」として1975年に創業した。徐々に取扱台数を増やし事業を拡大、91年には法人化。自動車リサイ

クル法の施行に向けて一層の事業拡大を図るため、2001年、現在地の宮崎市細江へ移転。05年に第2期造成工事、11年に第3期造成工事を完了して、3万6400㎡の敷地規模を誇る体制に整えた。

工場設備が一段と充実したのを機に、より積極的な活動を開始した。自社から半径10キロメートル内のエリアに、工場までの距離を示す看板を合わせて120本設置し、一般ドライバーなどが来場しやすくした。テレビCMや地元紙への広告掲載とも相まって、同社の知名度は着実に向上してきたという。

加えて、地域の小学校の依頼を受けて社会科見学の対象となり、リサイクル工場の見学会を実施している。反響が大きく、希望校が多いことから、現在は5月～11月の間、1か月に7校程度に限定して行っている。そのほか、地域社会の団体などから工場見学の要請も増えている。

本業に好影響 ELV買取り台数増加

今年は8月3日の日曜日に「第4回 自動車リサイクル祭り」を開催した。継続して実施するのは、地域社会への貢献と共に“祭り”を通して社内のコミュニケーションが深まる効果も大きい。「多くの方に来場してもらい、当社のイメージアップに結び付けたい」（久保田社長）としている。

リサイクル工場のPRを強化した同社の取り組みは、本業へ好影響を与えており、一般ユーザーからのELV買い取り台数が増えている。現在、月間平均で700台規模の入庫台数のうち、約3割が一般客で占めるという。

同社では今後も、一般ユーザーを含めてELVの入庫拡大に注力する。あわせて、人材育成に傾注して体質強化を図っていく。

（日刊自動車新聞 7月24日）

株式会社リンクスジャパン www.links-jpn.com

<http://www.jara.co.jp/>

株式会社吉岡商店 〒649-6222 和歌山県新市市岡田575-1
Tel:07-3662-2229 Fax:07-3662-1518
Mail:info@yoshiokashoten.co.jp

株式会社セカンドパーツ 〒649-6222 和歌山県新市市岡田695
Tel:07-3661-5311 Fax:07-3661-5314

サンケイ商会 売り上げの一部を寄付 岩手沿岸部 “絆プロジェクト” 被災整備事業者を支援



【北上】自動車リサイクル事業を手がけるサンケイ商会（紺野正博社長）は8月から1年間、東日本大震災で被災した岩手県の整備事業者を支援する「岩手県整備工場災害復興支援 絆プロジェクト」を実施する。絆プロジェクトは2012年に実施しており、今回で2回目。いまだに沿岸部で復興が遅れている現状を踏まえて継続支援を決めた。同社が岩手・青森・秋田の3県で販売するリビルト部品と社外新品部品の売上額の一部を支援金として、岩手県自動車整備振興会（元持勝利会長）へ寄付、県内沿岸部の整備事業者の支援に結び付ける。

絆プロジェクトは、全国のリビルト部品メーカーと社外新品部品商社の計21社の協賛を受けて、8月1日から15年7月31日までの1年間実施する。

支援金は、岩手整振本部を通じて甚大な被害を受けた大船渡・釜石・宮古・久慈の4支部へ寄付し、沿岸部の整備事業者の支援に役立ててもらおう。売上額や支援金の支払い状況などは外部の識者2人に監査役を依頼、協賛各社へ監査報告を行う。

7月25日には、同プロジェクトのチーフリーダーを務める紺野泰輔専務とサブリーダーの盛永哲也盛岡営業所所長が岩手整振本部を訪問、鈴木文男専務理事にプロジェクトの概要を説明した。

鈴木専務理事は「復興と将来の事業継続に向けて大きな力となる」と、感謝の意を語った。紺野専務は「提案を受け入れてくれた協賛メーカー・商社

各社に感謝している」と述べた。

震災の津波被害で、岩手整振会員事業場で被災したのは90工場。現在の状況は、41工場が本格復旧、24工場が仮設社屋で事業を再開、9工場は休業状態、16工場は事業を廃止した。同社では、協賛メーカー・商社とともに沿岸部の復興支援を加速させる。

協賛メーカー・商社は次の通り：
（順不同）

【リビルト部品メーカー】

▽松井製作所ウラワ産業事業部、エイ・ティ・エム、ATサービス東北、KSS、光洋気化器、ジャパンリビルト、信越電装、ディーゼル精機、ながおテクノ、日本ディーゼル、BRE関東、フジリンケージ、プラスワン、ティー・エー・エス、リピート、リビルトパーツ関東、リンクスジャパン、ワタナベ

【社外新品部品商社】

▽エスピー商会、いわきラジエーター、ソアーズジャパンリミテッド

（日刊自動車新聞 8月1日）

車齢長期化などで需要は 確実に増加 自費修理増加も追い風

近年の傾向である、自動車使用年数の長期化はさらに進みつつある。2013年度は、約14年となった。保有台数も増加しており、低年式車の占める割合は年々大きくなってきている。その分、修理する自動車も多くなると見られる。

また、保険料が上がり、保険を使った修理を避ける傾向が強くなってきた。自費修理の需要が着実に高まっている。

整備事業者によっては、新品部品を使った修理見積書とリサイクル部品を使った修理見積書の両方をユーザーに提案するなどの工夫を行う事業者も出始めた。リサイクル部品市場拡大には、好条件がそろいつつある。

ただ、課題もいくつかある。円安が進んだことにより、中古車輸出が伸び始めた。「低年式の車両まで国外に流れている」と懸念の声が多く上がる。車両台数の確保競争は、各事業者間で激化の一途をたどっている。

止まらない輸送費高騰

さらに部品を送るための輸送費がリサイクル部品事業者を圧迫している。運送会社は、景気の高揚により物流量が大幅に増加。リーマンショック後、人材を絞っていたこともあり一気に人材不足に陥った。円安や中東情勢の悪化により燃料費が上昇していたこともあり輸送費が高騰している。部品運送を頻繁に行う、リサイクル事業者にとっては厳しい環境となった。また、安全面に対して世論の関心が高まったこともあり、梱包方法も従来のやり方では難しくなってきた。運送会社からは「混載するので、周りの商品を傷つけないような梱包が必要」という要請が来ており、事業者側は対応を迫られている。

すでにこれに対応した動きはある。リサイクル部品事業者団体や運送会社などで構成される「自動車リサイクル部品ロジスティック研究会」。

現状や課題を意見交換するなど、両社が擦り合わせを行う貴重な場となっている。業界統一の梱包仕様の開発や、共同配送に向けたシミュレーションの実施などが具体化してきた。

各団体でも、効率的な梱包方法の検討を行う動きも出始めており、今後は物流を巡る動向も活発化しそうだ。

まずは正確な情報収集

リサイクル部品のPRをしようとする、他業界との交流も注目される。リサイクル部品を利用する整備事業者からは「流通システムは生産者側だけではなく、利用者側の利便性も考慮してほしい」という声が高まっている。

JARAでは、ブロック単位で有力整備事業者の整備工場を実際に見学する取り組みを行う。「リサイクル部品を使用している現場を見ることで、部品生産の視点も変わってくる」と担当者は指摘する。またその現場でも意見交換もできることから「双方向でのすり合わせが可能」だという。品質向上という部分においても、ユーザーである整備事業者の立場を知ることは重要だ。この他、各団体では講習会や研修会で部品の写真撮影方法などをテーマにした講義を行うなどユーザー視点の取り組みが広がる。

自動車リサイクル事業は、環境の変化とともに激変しており、事業者にとっては情報収集と事業展開の両方をしっかりと進めていくことが迫られている。

（日刊自動車新聞-自動車リサイクル部品特集- 8月25日）

KOBELCO

We Save You Fuel
Achieving a Low-Carbon Society

New ideas come from KOBELCO

Thirty years after putting our first auto-demolition machine on the market, we're leading the field in metals recycling to lower environmental impact

Multi-Dismantling Machines

For dismantling end-of-life vehicles and other appliances, and separating out their complex materials.



SK200



SK135SR

Scrap Loaders

For handling at scrap yard and harbors.
crawler-type: SK260LC, SK350LC, SK480LC



KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY CO., LTD.
<http://www.kobelco-kenki.co.jp>

KOBELCO

神钢 无坚不摧!
您满意的选择

新构想源于神钢

汽车拆解机上市30年,神钢推出减轻环境负担的废金属回收新方案。

多功能拆除机

在报废汽车等复合物拆除和解体领域发挥力量。



SK200



SK135SR

废弃物处理

在中间处理工厂和港口大显身手。
履带式: SK260LC, SK350LC, SK480LC



成都神钢工程机械(集团)有限公司
<http://www.kobelco-cg.com>

KOBELCO

We Save You Fuel
Achieving a Low-Carbon Society

새로운 발상은 KOBELCO에서

자동차 해체기 발매 30년, 환경부하를 한층 억제한 금속 리사이클을 제안.

멀티 해체기

폐자동차 등 복합물의 해체, 분별에 활약



SK200



SK135SR

스크랩 로더

중간처리장이나 항만에서의 핸들링 작업에 크롤러식: SK260LC, SK350LC, SK480LC



(주)삼정건설기계
www.samjung-kenki.co.kr



Go Go Japan Industry (M) Sdn Bhd

Lot 15, Jalan 4/32A,

Mukim Batu Industrial Area, 6½ Mile Off Jalan Kepong

52000 Kuala Lumpur, Malaysia.

Tel : 03-62415258 Fax : 03-62415285



高品質
High Quality
品质高超



低価格
Reasonable Price
价格合理



迅速なデリバリー
Speedy Delivery
交货迅速



優れたサービス
Excellent Service
服务卓越



For Enquiry, Please Contact / 询问洽购, 请联络 : 03-6241 5258

< Parts Supplying Fully Back Up by HIDA TEC Japan >

Tel : 025-539-1515

Email: narc-2001@helen.ocn.ne.jp



JOUETSU Branch

Tel : 025-274-1516

Email: narc-2004@ace.ocn.ne.jp



KAETSU Branch